

「当科外来患者における高尿酸血症治療と 糖尿病性腎症に関する検討」について

当センターでは、下記の通りの臨床研究(学術研究)を実施しています。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、患者さんのプライバシーの保護については法令等を遵守いたします。

なお、あなたの試料・情報について、本研究への利用を望まれない場合には、問い合わせ先へご連絡ください。

1. 研究課題名

当科外来患者における高尿酸血症治療と糖尿病性腎症に関する検討

2. 研究の対象および研究対象期間

2011年1月1日から2021年12月31日の間に当科外来を受診した全ての糖尿病患者。
試料・情報は2010年以降で当院に残っているものを用いた。

3. 研究目的・方法

糖尿病患者において、高尿酸血症に対する治療介入によって腎機能や蛋白尿の程度がどのように変化するかを検討した。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢・性別、病歴、併存症(糖尿病、高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症、心疾患・脳血管障害の有無)、CT画像の所見、血液・尿検査の結果

5. 問い合わせ先

この研究についてご質問等ございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。
また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記にお申し出ください。試料・情報の使用を断れても患者さんに不利益が生じることはありません。なお、研究参加拒否の申し出が、既に解析を開始又は結果公表等の後となり、当該処置を講じることが困難な場合もございます。その際には、十分にご説明させていただきます。

日本赤十字社和歌山医療センター 糖尿病内分泌内科

研究担当医師 海道 陽介

連絡先 073-422-4171(代表) (平日：9時00分～17時30分)

【背景】高尿酸血症は炎症反応や細動脈硝子化と関連して腎機能低下に影響することが知られている。【方法】当科外来の糖尿病患者のうちフェブキソスタットによる高尿酸血症治療を行った患者計 539 人で、尿酸介入前後での腎機能や尿蛋白の変化を後ろ向きに検討した。【結果】推算糸球体濾過量(eGFR)の年間変化率は、尿酸介入前-6.88、介入後-1.09 と、介入前後で腎機能低下速度が有意に改善していた。糖尿病性腎症 1-4 期全てで同様の傾向を認めたが、腎症 3 期や腎硬化症を呈している症例ではこの効果は弱かった。尿蛋白は尿酸介入前後で有意な変化がなかった。【結語】糖尿病患者では尿酸に対する治療介入で腎機能低下が抑制できる可能性がある。